

## アフリカでポリオの終息 20年以上の協力が実を結ぶ



子どもたちにポリオワクチンを投与するWHOの職員。

今年8月、WHO（世界保健機関）がアフリカでのポリオフリー（野生株のポリオがなくなった状態）を宣言した。アフリカで最後の流行国であったナイジェリアでは2016年を最後に新規感染が出ておらず、終息したと判断された。

ポリオ<sup>\*1</sup>は、おもに乳幼児が発症する感染症で、1940年代ごろには世界中で毎年50万人以上が感染。ワクチンの普及で患者は減少していたが、ナイジェリアでは特に北東部の治安の悪さや、宗教や文化の違いによりワクチンが忌避されていたことから対策が遅れていた。

JICAは2000年代からUNICEF（国連児童基金）、WHOなどの支援機関や、ビル&メリンダ・ゲイツ財団と連携して、ワクチンの調達や輸送保管を行う保冷箱や冷蔵庫などのコールドチェーン整備、また人材の育成などを行い、ナイジェリアのポリオフリーに向けた対策を長年支えてきた。

今回のWHOの宣言を受けて、祝賀イベントがオンラインで開催され、ビル・ゲイツ氏自身も参加してポリオ根絶活動の支援者や従事者たちと達成の喜びを分かち合った。これにより、ポリオがまだ残っているのはアフガニスタンとパキスタンの2か国となった。

<sup>\*1</sup>ポリオ（急性灰白髄炎）は便を通して広がり、感染すると手足のまひなど後遺症が残ることがある。

### ニュース深掘り! 試行錯誤の末に達成できた喜びと、次なる支援への思い

ポリオフリーに至るまで、資金やワクチン、人材などあらゆるものが不足するなど、多くの課題がありました。日本と現地地で連携しながら粘り強く進めてきました。2014年以降には、ナイジェリアの円借款<sup>\*2</sup>により調達したワクチンで予防接種キャンペーンを実施。この借款の枠組みでは、現地政府がキャンペーンを通じて一定のワクチン接種率を達成すると、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が政府に代わり返済する仕組みを取り入れました。感染症対策のための官民連携としても革新的な事例だったと言えるでしょう。

国際社会が多方面から働きかけ、足並みをそろえて感染症に打ち勝つことを実感するとともに、ナイジェリアのブハリ大統領からJICA宛てに感謝状が贈られるなど、これまで多くの人たちで積み重ねた協力が実を結んだと確信しています。

ナイジェリアにはまだラッサ熱<sup>\*3</sup>などの感染症も流行しており、引き続き対策に力を入れています。今回のアフリカでのポリオフリーは、アフリカの子もただだけでなく、まだ発生が続く国や他の感染症、また全世界で流行している新型コロナウイルス感染症の対策従事者にも希望になると信じています。



アフリカ部 アフリカ第1課  
内田 久美子<sup>さん</sup>(右)  
うちだ・くみこ  
ナイジェリア事務所  
奥村 真紀子<sup>さん</sup>(左)  
おくむら・まきこ

### JICA HEADLINE NEWS

- 9月 2日 | ▶ **ブラジル 官民連携で省エネ基準改正を実現**  
日本のエアコンメーカーがJICAと連携し、政府に働きかけた結果により実現。エネルギーや環境保全の課題に貢献。
- 9月 1日 | ▶ **モーリシャス 油流出事故に対する国際緊急援助隊・専門家チーム三次隊派遣**  
同国沿岸で座礁した日本の貨物船事故に対し、8月19日に出発した二次隊に続き、支援活動。
- 9月 1日 | ▶ **インド 財政支援を通じ、新型コロナウイルス感染症危機対応に貢献**  
インド全土での保健医療分野における緊急対応を支援し、新型コロナウイルスの拡大防止及び社会経済的影響の抑制・緩和を目指す。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!  
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>